關西大學新報

発行所
大阪市大淀区長柄中通
関西大学天六学舎内
関西大学新報社
電話 堺川㊥2072番
発行人 中山 巌
編集人 辻 忠裕
(定価一部十円)

古本全般売買
天牛本店
南区道頓堀中座前
電話㊥二七五八番

学友会 規約改正またまた流る

改正点の骨子 代議員制が原因

徒労に終る善後策 事態収拾

本学学友会の規約改正の問題は、三十三年度秋期学生大会で、学友会規約改正案が、審議未了のまま大会は流会となったため、その後、執行委員会ではこの事態を収拾せんとして、いろいろ善後策をこうじていたが、ついに現執行委員会においては不可能の結論にたっして、三十四年度の新自治委員会、執行委員会にこの問題は引継がれることとなった。

規約改正問題は、昨年度の学生大会において規約改正を決議し、同十一月十二日にこの問題で自治委員会を開催、その席上において、本規約の代議員制を可決、憲章問題のみを全学投票で決めることも決まり、これをもって、全学投票、秋の学生大会をとのんだのであった。

十二月十一日～十三日の三日間にわたり規約改正の全学投票が行われた結果、賛成一、五九〇票、反対六八一票で規約改正案は、いちおう承認されたに見えたが、ここにおいて第六十中央選挙管理委員会の手落ちから、問題はくすぶりだし、秋期学生大会（十二月十七日）は大混乱となり、ついに流会という結果にいたったのであった。

このような結果に取扱うべきことが、自治委員会は、出席十三名の自治委員で、三十四年度中央選挙管理委員会、委員を推選（三）▽三原康信（法三）▽浅田義信（文四）▽松岡純雄（文三）▽藤原国樂（文三）▽原俊之（経四）▽吉岡欽三（商四）▽金沢重樂（商四）▽中村勝彦（商二）

中選管委会開く

中央選挙管理委員会は、三十日初の会議を開き、浅田委員長以下各役員を決定した。

委員長 浅田 信義（文四）
副委員長 原 俊之（経四）
〃 吉岡 欽三（経二）
書記長 金沢 徳樂（商四）
副書記長 三原 康信（法二）
〃 中村 勝彦（商二）

浅田委員長の話 公正を期したい。自治委員会が選管の選出をおくれたことは遺憾である。例年よりおくれはしたが、おくれたからといって公正を欠くということはない。公正な選挙をやる。

17日に選管委選出（四月）

委員長 浅田、副委員長 原、吉岡を決定

三十四年度中央選管の選出は、自治委員会の定数不足による不成立からおくれ、十七日ようやくその選出をおわった。

本年度の中央選挙管理委員選出は、十七日行われたが、定数に来たす不成立に終った。しかし新年度自治委員の選出の時期が迫っているだけに、これ以上のばすことは、自治委員会は、出席十三名の自治委員で、三十四年度中央選挙管理委員会、委員を推選（三）▽三宅隆雄（法四）▽里見勝彦（法三）▽三原康信（法二）▽浅田義信（文四）▽松岡純雄（文三）▽藤原国樂（文三）▽原俊之（経四）▽吉岡欽三（商四）▽金沢重樂（商四）▽中村勝彦（商二）

中選管委会開く

中央選挙管理委員会は、三十日初の会議を開き、浅田委員長以下各役員を決定した。

委員長 浅田 信義（文四）
副委員長 原 俊之（経四）
〃 吉岡 欽三（経二）
書記長 金沢 徳樂（商四）
副書記長 三原 康信（法二）
〃 中村 勝彦（商二）

浅田委員長の話 公正を期したい。自治委員会が選管の選出をおくれたことは遺憾である。例年よりおくれはしたが、おくれたからといって公正を欠くということはない。公正な選挙をやる。

十六日に全員決まる

自治委員 各学部ともかなりの激戦

自治委員の定員四十一名が全員決定するのは、十六日午後九時どろの予定。

三十四年度自治委員選挙は、四日公示され、十日まで学友会、中央選挙監視委員会で立候補者の受付けをおこなった。この結果、定員四十一名に対し、二倍の八十二名が立候補し、予想通り激戦となった。

とくに今回の選挙では、例年立候補の少い、文学部一年次が、定員二人に対し、七名立候補し、三・五倍となった。

次に経済学部、二年次の、二・六倍で、無競争、信任投票となったのは、法四、法二の二クラスだけ。また体育関係者、学部関係の立候補者数は、五分五分である。投票は十一日に始まり、十六日の文四の投票で全部終り、開れの四十一自治委員が、午後九時すぎ決定する。

第一回自治委員会は22日ごろ

十六日自治委員が決定、第一回の自治委員会は二十二日ごろ開かれる。

規則＝自治委員会は、自治委員が決定してから十日以内に開く、を適用する。

11日から投票

中央管理委員会の指定する時間に、指定の教室で候補者の演説を行い、候補者の推選演説を行ったあと投票。即時開票で自治委員を決定する。自治選挙は、十一日経済学部二年次をトップに、十六日まで行なわれる。選挙は、中央選管が行い開票で自治委員を決定する。

投票は、学生証と交換に投票用紙が交付され、中央選管委員が、集める。

立補候届出

立候補者名（）内は学部学年届出
後◇縄池一雄（文三）経研▽森田桂司（法四）社研▽佐々木弘（経三）社研▽奥野忠敏（文二）社研▽居附博（法三）社研▽有馬正興（商二）現中研▽町田寛（文二）現中研▽岩江晋明（文二）現中研▽菅戸清（商二）経済研▽徳田良一（文二）新報社▽篠吉彦（文二）▽今西良一（経二）社研▽中井正弘（法二）社研▽下川憲三（法三）▽吉岡欽三（経二）E・S・S▽小野清一（経四）E・S・S▽杉岡純雄（文三）▽高木学夫（経二）▽原俊之（経四）応援団▽金沢重徳（商四）応援団▽井本一人（法三）▽丹治一平（文二）▽山田一彦（文二）▽山本博之（商二）▽中村勝彦（商二）▽川崎崇一（経二）▽松井喜一（法二）社研▽三原康信（法二）▽長田久和（経二）新報社▽浅田義信（文四）学窓▽板垣庄三郎（経二）▽曽我部良一（文二）相撲部▽朝田明巳（経二）拳法部▽奥山和郎（商二）拳法部▽清水大也（経二）▽塚原啓元（文四）▽次盛富弘（法四）体育本部▽三浦佐一郎（経四）弁論部▽宮崎賞（経二）弁論▽桝谷親男（法四）▽竹内福蔵（文四）近文研▽坂井正明（商四）経営研▽泉陸（文二）▽水原英明（経四）▽金村光来（文二）▽伊藤順郎（経三）▽田部喜雄（経二）社研▽広岡八郎（文四）▽長沢ひろし（文四）▽松本次男（経二）ESS▽中井吉一（法二）▽徳永喜國（法四）リーダクランツ▽河内政雄（文二）▽小野治夫（商一）学窓▽奥本弘正（経三）▽吉原秀晃（経二）▽松田祉二（商二）▽今川正能（文二）▽乙女邊吉夫（商三）望手道部▽大塚敏助（文二）スキー▽阿部陸（経三）スキー▽田中厚風（法三）▽寺田定夫（経四）水泳部▽松本功（法三）▽中島陸（法二）▽菊本英昭（商三）▽中村力勇（商三）▽御崎孝也（経四）野球部▽前田栄（経三）▽森口陸二（文二）弁論部▽黒見武彦（法三）▽口ふじ子（法三）▽中藤昌郎（法二）▽岸豊昭（商二）▽太田文雄（商四）▽西口敏夫（商二）▽戸田一（法二）▽延原源勝（法二）▽金田壮軸（経四）学窓部△畑中英夫（経二）▽秋田興（経二）▽藤原昇夫（法二）

時評

地方選挙の総決算

文学部教授 金戸嘉七

地方首長の選挙結果は、予想されていたように与党の勝利になった。予想されていたというのは、当初は優勢たようにみえても、終わりになると革新勢力が優先されるのは、これまでしばしば経験されることだったからである。形勢五分五分と新聞にかかれたら、もう負けたのも同然である。後の二、三日この形勢は六分四分になる。その理由はわかくとも各人の胸にわかるはずだ。

二重三重の選挙だったから、衝撃の感覚も二倍三倍であった。まち後に続く選挙もあるので、当分はこのわるいしさから脱けだせそうもない。禁止されている選挙も黙味方が入り乱れて、わたしの老を囲む新緑の山々にこだましている。

革新勢力が優先されるのは、これまでしばしば経験されることだったからである。形勢五分五分と新聞にかかれたら、もう負けたのも同然である。後の二、三日この形勢は六分四分になる。その理由はわかくとも各人の胸にわかるはずだ。

地方首長の選挙結果は、予想されていたように与党の勝利になった。予想されていたというのは、当初は優勢たようにみえても、終わりになると革新勢力が優先されるのは、これまでしばしば経験されることだったからである。形勢五分五分と新聞にかかれたら、もう負けたのも同然である。後の二、三日この形勢は六分四分になる。その理由はわかくとも各人の胸にわかるはずだ。

わたしも引きたされて政局選挙に立った。わたしは細い地方自治体の末端に触れたことは何もしらないので、もっぱらこんどの選挙に当って、与党側からたされた奇怪至極な発言について語った。それは以前自治庁長官もいったことのある、自民党の川島前幹事長が言ったというのである。

政府の援助を仰がねばならぬ。そこで政府は自治体の首にナワをかけて、その手の中に活殺自在の権を握る。これこそ官僚支配の典型的なものである。

戦後の地方自治体は主権を握った民衆の自由な意思によって、その首長を選ぶことになった。しかしこれまでの権力国家の統制に服従してきた民衆には、せっかくもらった権利も、行使する段になるといたって不慣れそういこれまでの官尊民卑の確性で、官僚の侵入を許してしまった。その事情は中央についても同様であるが、ひとたび失地を回復したとなると彼らは持ち前の力を発揮する。中央集権はお家芸である。自治体だとはおのみで、何もかが中央にしばりつけられて、自分の力では何ひとつできなくしてしまった。こなものである。そんなせいかこのごろはいっこうに聞まれなくなったが、自覚しない民衆が入るより棄権の多い方が公明選挙が行われるとの確信はいまでも疑っぬ。棄権防止とあまり騒いもの人のりでわめくのは、棄権防止とあまり騒いもの人のりでわめくのは、棄権防止とあまり騒いもの人のりでわめくのは、

日中貿易断絶の意味するもの

去年三月五日、第四次日中貿易協定が調印されたが、岸介石政権からの強い横やりが入り、また二つの中国をつくりだしていこうとする岸内閣の動きなどから、中国の反対を受け、けん悪化した日中国交が、おりもおり長崎の中国国旗の侮辱事件がおこり、ついて貿易その他の一切の交流中断となって、接近しつつあった日中両国の関係が再び鋭い対立となってあらわれ現在にいたっている。われわれはこの事態をよく認識し今後どうあらねばならないかを考へてみよう。

現中研提供

躍進著しい中国経済
貿易の有利性薄れる
解決は国民の手で……
政府責任に帰すは誤り

中国側の要求……「三原則、三措置」貿易再開条件……

昨年の五月以降、日本と中国間の貿易は中国政府の手によって全面的に停止するに至り、現在幾多の問題を提起していることは、よく知られている。

まず、何故このような措置を中国側がとるに至ったかについてもいろいろいわれているが、ここでは論を進めて行くために、そのことを一番よく表明している「三原則」ならびに「三措置」（これは日中貿易再開の条件として中国側が日本に要求しているものである）を列挙することにとどめておこう。

【三原則】

①…中国敵視政策をやめること

②…二つの中国をつくる陰謀をやめること。

③…日中両国の正常化を妨げないこと。

【三措置】

①…長崎国旗事件に関し政府は、三つの措置をとること。

（イ）正式に政府代表を現地に派遣し再び国旗を掲げる。

（ロ）国旗事件犯人を厳重に処罰すること。

（ハ）長崎事件の謝罪のため政府代表を中国に送ること。

②…陰謀停止の声明を出すこと。

③…日本政府代表を北京に派遣し今後の問題について話合うこと。

日本側の回答……非常に曖昧なもの 誠意みられず……

明らかな諸氏には、いうに及ばないことであると思うが、以上列挙した事柄の大体反対の行動が日本政府の手によってなされたとすれば、誠意みえなかろう。

また、この要求に対する日本側の回答は、非常にあいまいなもので「静観」であるとかいった、逃げ口上をとっている状態で、誠意の発露ともいうべき積極的証拠は何らなされていないのである。

このように基本的な条件が解決されていないのであるから、三月に行われた社会党の中国訪問に際して、具体的な成果を得ることができなかったのも、極めて自然なことであるといえるのである。

両国間の正常化は……国民自身の手で 政府に帰すは誤り……

中国政府の鋭い洞察力の前には、この理論も何等価値を持たなくなってしまった。

中国側からみるならば、解放後の限りない経済発展の過程の中から、日中貿易を無視しても十分経済自立のできる自信があるので、日本側が考えているように、中国に利益を与えるのだという考えは全く意味がなくなってくるのである。もちろん、地理的な関係、歴史的な関係から、日中貿易の有利性を中国は、ぜんぜん無視しているような誤ではなく、中国を敵視しようとする国家と関係をもってまで、有利性を得る必要が、中国にはないのである。

次に現在、行詰っている両国間の関係をいかにして正常にするかということについて少し考えてみよう。まず、日中貿易（国交回復にも通ずる）の断絶は、現在いわれているところによると、岸内閣の責任という形でのみ把握されている。

すなわち、その責任の二者は日本国民自身の中にあるのである。この問題は、単なる日本と中国との関係でなく、資本主義と社会主義との接触が、ままたまま、日中関係という形になって表われてきた現象なのである。

このように考えるならば日中貿易再開の問題は、日本国民自身の手によって解決しなければならないということが明白になってくる。すなわち、中国の要求している「三原則」は、現在、米国の資本主義に従属している立場を一日も早く脱しなければならないということを表明しており、一方では国民各自が現代日本の社会体制をもう一度検討することを要求しているように思われるのである。

現代日本における高度資本主義体制の中で、日中貿易を糸口として、その内部に存在する矛盾が起るかという根源に入った時、人々は社会主義体制の有利性を知るのである。

次に国民各自の力によって、その有利性を具体化しようとする大きな動きがおこってこなければならないのであり、またこれが一番重要なことであるので、中国としても日本にそれを要求しているようなる次第である。

これは非常にいいことであるけれども、資本主義構造の中で一般の人達より多くの利益を享受している者の反撥にあい、伸々容易に解決されるとは思われないが、われわれはその勇気を具体化しなければ前進できないのである。

このような角度からみるならば、現在断絶している日中間の動向は決して悲観的なことではなく、われわれ国民を援助しているような感もする。それならば、日中貿易断絶によって困難な状態にある中小企業の問題は、どうするかということは、これを機縁にして大部分の中小企業が独占資本によって、搾取されているという事実を明確に認識しなければならないのである。

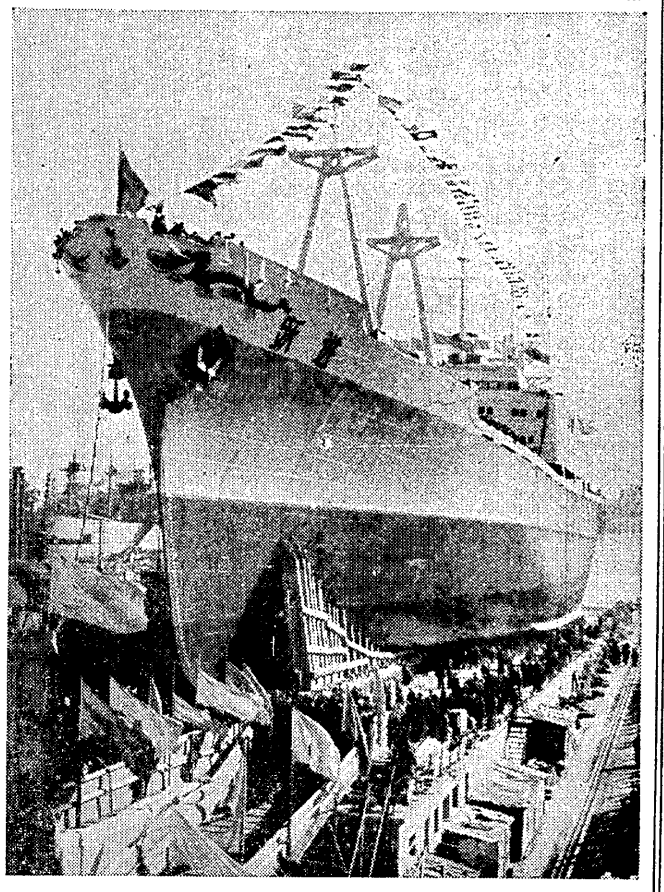
われわれは、現在所々に表われている資本主義体制の動揺を正確に認識し、次にくるべき社会体制に移行するチャンスを掴まねばならないのであるから、日中貿易の問題についても、根本的に再考を要する時期に来ているのである。

「急がば廻れ」とは此ことのことをいっているのではなかろうか。

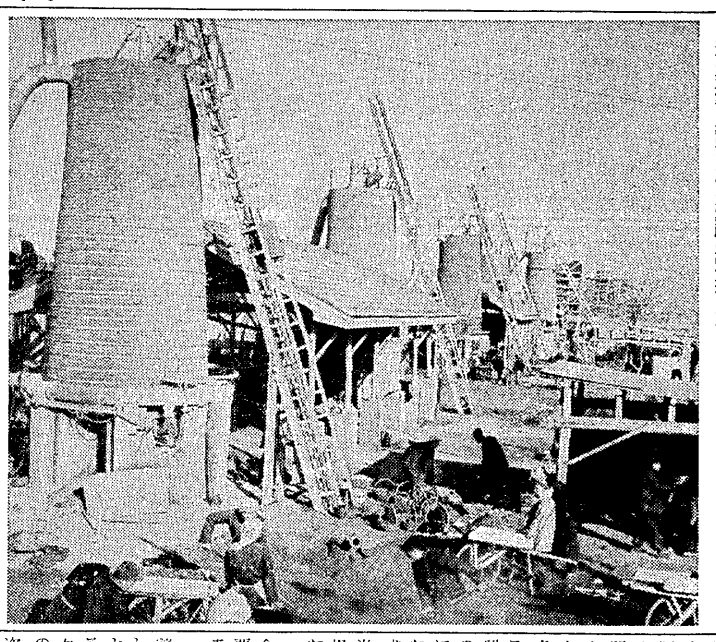
▽…昭和三十四年三月十七日、社会党、浅沼訪中団長と中国人民外交学会幾発会長との共同声明が発表される。なお浅沼団長は三月十二日に北京の政協会議講堂でおこなったアメリカ帝国主義の批判講演は内外に大きな反響をまきおこした。

日中国交最近のうごき

喜びの顔・顔・顔　人民公社の食堂。祭日の御馳走を楽しむ人民公社々員



歓呼浴びて巨船が進水　1958年11月27日中国最初の巨船「跃进号」は群衆の歓呼を浴びて進水した。



発展する鉄鋼基地　中国農村においても多くの鉄鋼基地が建設されている。この種の鉄鋼コンビナートは十九五八年に大躍進現われた生産の高度と平炉の基礎の上に発展してきた。これが中国鉄鋼工業を通じ発展させる原動力となったのである。

写真は河北省、法郎における鉄鋼の高炉群である。

足で確めた中国建設

野上弥生子著『中国旅行』

（岩波新書）

評

「静観、誤解」……政治経済 別個の迷論……

現在の資本主義諸国の中で、その中堅を構っている日本独占資本を考慮とした、日本政府の立場からみるならば、そう簡単に中国側の要求に応じられないので、必然的に「静観」だとか「誤解」だとかいうことによって、大衆をごまかすより手がないのである。

すなわちここで中国の要求を振り返って考えるならば、社会主義国家中国に対して、資本主義国家日本の一つの敗北を意味するという重大な問題を包含しているので、容易に解決されないことは、極めてあたりまえのことである。しかしながら、ここにおいて問題になってくることが排斥している中国に対して、何故、独占資本（もちろん、中国貿易を望んでいるのは独占資本のみでなく、多くの階層の人達を含んでいるが）現在の政府が貿易再開を望んでいるのは、独占資本の要望があるからである（貿易再開を望んでいるのであろうか？……それは資本主義諸国間の市場争奪戦における日本の占める立場が非常に不安定なので、その対応策として中国大陸との貿易によって、得ることのできる有利性を望んでいるのである。

（旅行）記といわれるものは、どんなものであるかを、簡単に紹介しています。

（僕達）は中国人民の正義の強度に対して、日本国民が自分に課せられねばならない日中親善の前提条件を知ることができます。日本と中国の国際的位置は、世界の資本主義諸国とくらべてみて、ひいき眼に見ても決して同程度であるとはいえません。また、今日の日本と比較しても遜色ないでしょう。しかし僕達は彼らの解放前までの生活がいかに惨めなものであったか、この事実をよく知らねばならないのです。それは想像に絶するほど定する国があるのはなんと奇怪なことだろう」ということの数々であり、日中親善にあたっても、しかし中国においてはそれがありえるのです。このような著者の「一千万平方キロ」と及ぶ面積と七億の人口と三千年の歴史をもち、最大に上最古ありながらなお且つ世界の最貧の国として盛揚している中国に対して、外交的にそっぽを向いているのみでなく、その存在さえ否定する国があるのはなんと奇怪なことだろう」ということの数々であり、日中親善にあたっても、しかし中国においてはそれがありえるのです。このような著者の「一千万平方キロ」と及ぶ面積と七億の人口と三千年の歴史をもち、最大に上最古ありながらなお且つ世界の最貧の国として盛揚している中国に対して、外交的にそっぽを向いているのみでなく、その存在さえ否定する国があるのはなんと奇怪なことだろう」ということの数々であり、日中親善にあたっても、しかし中国においてはそれがありえるのです。このような

（現在）は立場を異にする中国の生活水準は、解放前までの状態をよく認識するということは、中国革命を理解する一つの大きな鍵であり、日中親善にあたっても、しかし中国においてはそれがありえるのです。このような

（中国）は広い、僕達が考え、想像している以上に広い。それを新めて本書は知らしめてくれます。日本においては考えられないことが、現実にいろいろ書かれ、模倣的な問題づくりといい、なおかつ、その他の問題が右の洞窟に新鮮さを与えて、勇気づけい、労わりあった当時の友情、愛、同情をかんじんも忘れていない中央の生成過程は世界の歴史にたってない珍らかな、美しいものだと私は信じたい。同時に思ったことは、それがくさび、それがくさび、それがくさび